

## 国際社会学部

# 田島 陽一

Kyoin Shimei Yoichi Tajima

コース／地域 国際関係コース

ディシプリン 国際経済学，開発経済学

### 開発経済学とは

第2次世界大戦後，政治的独立を実現した途上国の経済的自立に向けた道筋を明らかにすることを目的とした学問分野です。初期の開発経済学の主流となったのは構造主義という学派で，次のような認識を共有していました。途上国の経済発展は市場に任せては失敗するため，政府の役割が重要になる。途上国の主要な輸出は一次産品であるため，輸出による経済発展は難しい。これに基づいて，ラテンアメリカでは，輸入していた工業製品の国産化を進める開発戦略が取られました。これとは対照的に，新古典派という学派は，経済発展にとって市場メカニズムが重要であり，政府に任せていたのでは失敗する，輸出は経済発展を牽引すると主張しました。これに基づいて，東アジアでは工業製品の輸出を進める開発戦略が取られました。

### 研究紹介

私の専門領域は，国際経済学，開発経済学，メキシコ経済論です。これまで国際経済の様々な領域（財・サービス貿易，直接投資，FTA，国際課税等）について研究してきました。とくに米国とメキシコとの間の国際分業がメキシコの経済発展に与えた影響について考えてきました。

以上のような分野に私の「比較優位」はあると言えますが，演習題目に合わせて，私自身も学生諸君と共に学び，その領域を広げていきたいと考えています。

### 担当授業

- 「貿易と直接投資」
- 「東アジアの経済発展と開発経済学」
- 「ラテンアメリカの経済発展と開発経済学」

### 関連する分野

- ミクロ経済学
- マクロ経済学

### 出版物

- 『グローバリズムとリージョナリズムの相克：メキシコの開発戦略』
- 『地球経済入門：人新世時代の世界をとらえる』

## 国際社会学部

# 「異端派経済学入門」ゼミ

### どのようなゼミか

「異端派経済学」とは耳慣れない言葉だと思います。まずは、現在の標準的な経済学の教科書に書かれている内容とは異なった理論に基づく経済学だと考えて下さい。その内容は実に多様であり、「異端の中の異端」であるマルクス経済学から、レギュレーション理論、ラテンアメリカ構造学派など、様々なものがあります（岡本哲史・小池洋一『経済学のパラレルワールド：異端派総合アプローチ』新評論，2019年，3頁）。このゼミでは、普段私達があまり触れることがない、異端派の経済学を学び、そこから現実の経済や社会の問題を考えてみたいと思います。

「なぜ主流派でなく異端派の経済学を学ぶことに意味があるのか」と感じる人は多いと思います。過去40年間、新自由主義やグローバル化など、世界の経済は主流派経済学の議論に導かれながら動いてきました。その間、途上国における絶対的貧困が減少したり、経済成長により先進国の経済水準に近づけた人々がいた一方、中間層から転落し、貧苦にあえぐ人々も増加しました。また経済成長の結果、温暖化等の地球環境問題も深刻化していると言われていています。果たして、このまま主流派経済学の議論だけに基づいて経済のあり方を考えてよいのか、私は大いに疑問に感じています。近年、そのように感じる学生が海外では増えており、これまでの経済学教育のあり方に対して改革を求める運動が広まっています（例えば、Rethinking Economics やPost-crash Economicsなど。遠藤環「アジアの不確実な未来を共に生きる」『書齋の窓』No. 673, p.28参照）。異端派の経済学は、これまでの経済や経済学のあり方を見直す重要な議論を提供していると私は考えています。

### 卒論

- 「なぜ日本の子どもの貧困対策は不十分なのか：子どもの貧困の再認識」
- 「途上国における輸出指向型農業に関する一考察：マレーシアおよびインドネシアのパーム油産業を事例に」
- 「輸出による技術伝播の実証分析」

### おススメの本

- 岡本哲史・小池洋一『経済学のパラレルワールド：異端派総合アプローチ』新評論，2019年。
- ブランコ・ミラノヴィッチ『資本主義だけが残った 世界を制するシステムの未来——』（西川美樹訳）みすず書房，2021年。
- 本田浩邦『長期停滞の資本主義—新しい福祉社会とベーシックインカム』大月書店，2019年。